



Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラム
招へい（カリコムグループ）の記録
テーマ：日・カリブ交流年 2024 を見据えた交流強化

1. プログラム概要

【目的】カリコム共同体（カリコム）加盟国の若手行政官が、訪日し、日本の外交姿勢や開発協力、海洋保全の取り組みを学び、自国での環境保護及び地球温暖化対策に活かすため、本プログラムを実施しました。参加者は、テーマに関する視察や講義、文化体験や交流を通じて、日本と中南米諸国とのつながりを学び、2024 年の日・カリブ交流年に向けた友好関係強化を目的に実施しました。

【参加者】

カリブ共同体（カリコム）加盟国^{（注）} 11 ヶ国の若手行政官 12 名

（注）カリブ共同体（カリコム）加盟国：ガイアナ、ジャマイカ、スリナム、セントクリストファー・ネービス、セントビンセント・グレナディーン、セントルシア、トリニダード・トバゴ、ハイチ、バハマ、バルバドス、ベリーズ

【訪問地】

東京都、鹿児島県（与論島）

2. 日程

■ 事前学習（オンライン）

1 月 18 日（水曜日）【オリエンテーション】来日前オリエンテーション、来日プログラム事前説明
指定期間 【ウェビナー】日本理解講義、日本語学習動画

■ 来日プログラム

1 月 24 日（火曜日）羽田空港より入国

1 月 25 日（水曜日）【オリエンテーション】来日時オリエンテーション

【視察】浅草

【講義】「日本の概要と魅力」講師：外務省 カリブ担当大使 山田 彰氏

1 月 26 日（木曜日）【表敬訪問】外務省 外務副大臣 武井 俊輔氏

【テーマ関連講義】「カリブ地域への開発協力」講師：国際協力機構（JICA） 中南米部 中米・カリブ課 主査調査役 高橋 スリマラ氏

【講義】「日本とカリブ共同体との経済・外交関係や協力体制」講師：外務省中米カリブ課長兼室長ブリーフ 清水 地足氏

【講義】「日本とカリブ諸国における、持続可能な漁業のための IUU 漁業への取り組み」講師：外務省経済局漁業室 藤原 稔久氏

【講義】外務省国際原子力協力室

【レセプション】外務省

1月27日（金曜日） 東京都から鹿児島県へ移動

【表敬訪問】鹿児島県庁 副知事 藤本 徳昭氏

【視察】鹿児島市内（鹿児島県庁展望台、イオンモール鹿児島等）

1月28日（土曜日）鹿児島県から与論島へ移動

【交流】与論町役場・ボランティアグループ「海謝美」による歓迎式典、意見交換会、交流（与論の民謡やエイサーを踊る等）

1月29日（日曜日）【交流】ボランティアグループ「海謝美」とごみ拾い活動

【視察】与論町ごみ処理施設等

【文化体験】与論民俗村にて草木染、三味線体験

1月30日（月曜日）【交流】ボランティアグループ「海謝美」とごみ拾い活動

【学校交流】与論町立茶花小学校訪問、交流

鹿児島県与論島から東京都へ移動

1月31日（火曜日）【ワークショップ】報告会準備

【報告会】

【体験】 茶道体験

2月1日（水曜日） 羽田空港より出国

3. プログラム記録写真

事前学習

	
1月18日【オリエンテーション】中南米対日理解促進交流プログラム概要説明	1月18日【オリエンテーション】自己紹介

来日プログラム



1月26日【表敬訪問】外務省武井副大臣



1月26日【テーマ別関連講義】「カリブ地域への開発協力」講義終了後の記念写真



1月27日【表敬訪問】鹿児島県藤本副知事



1月28日【交流】与論町役場・ボランティアグループ「海謝美」の皆様と記念撮影



1月29日【交流】ボランティアグループ「海謝美」とごみ拾い活動



1月29日【文化体験】与論民俗村にて三味線演奏体験



4. 参加者の感想（抜粋）

◆ ガイアナ 社会人

このプログラムで与論島を訪問して、今まで気づいていなかった日本との多くの共通点を発見することができました。また、豊富な知識を持つ現地の人々から、自然の恩恵や有効利用について多くを学ぶことができ大変感動しました。

◆ セントビンセント及びグレナディーン諸島 社会人

視察や講義を通じて、持続可能性や自国への貢献について、より理解を深めることができました。その中でも与論島訪問が最も印象的でした。与論民俗村、食事、住民との交流、そして小学校訪問等、どれをとっても素晴らしい経験になりました。日本とカリブ諸国はいくつも共通点があるため、日本文化全体をより深い感謝と理解を得ることができたと思います。

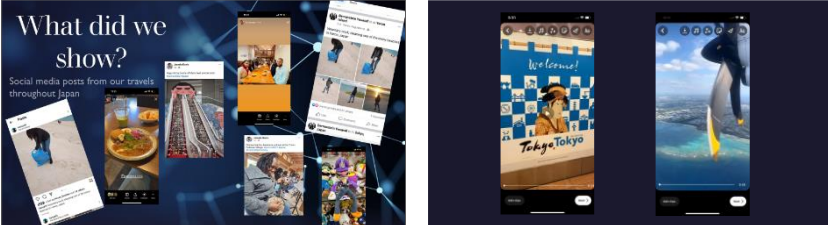
◆ セントクリストファー・ネービス 社会人

この訪日プログラムで最も印象に残っているのは、与論島に訪問したことです。家族のように皆さんが接してくださり、故郷を思い出しました。特に、小学校の子どもたちの歓迎ぶりには驚かされました。私たちの国について調べてきてくれた子ども達がとても興奮している様子も新鮮でした。彼らの質問からも、このような交流プログラムで私たちの国を訪れたいと思っていることが伝わってきました。いつの日かそれが実現するように願っています。また島のごみ処理施設の視察は、気づかされる事が多かったです。廃棄物管理がうまく運営されており、効率的な処理がされていました。

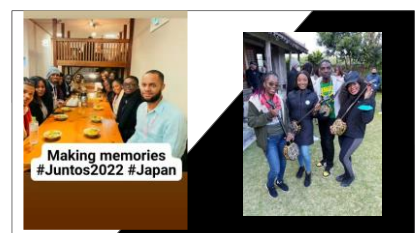
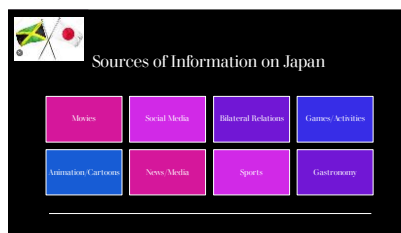
5. 参加者の対外発信

	 Embracing the Japanese culture at the Yoron Folklore Village. #juntos2022 #japan #CulturalDiplomacy
2023 年 1 月 31 日 (Instagram) バハマ 社会人 浅草を象徴する雷門にて集合写真	2023 年 1 月 29 日 (Instagram) セントクリストファー・ネービス 社会人 与論民俗村で日本文化を体験しました。

6. 報告会での帰国後のアクションプラン発表（抜粋）

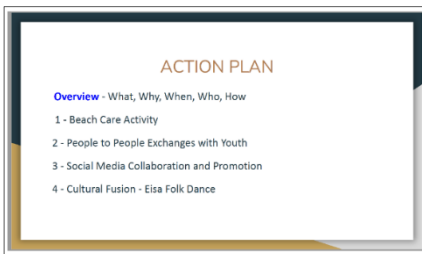
カリコムグループ ①	
	
■ 廃棄物管理における若者の地域参画促進 私たちの使命は、日本滞在中に得た経験、特に与論島での経験を生かし、持続可能な廃棄物管理を通じて環境保全への関与を促進するよう若者グループを対象とした地域啓発プロジェクトを開発する事にある。 ① 実施理由：観光業に依存する小島嶼開発途上国（SIDS）として、適切な廃棄物管理は国の経済発展にとって極めて重要であるため ② 実施時期：今後 3 ヶ月間、様々な団体の参加協力を得てプレゼンテーションを実施 ③ 実施する者：Juntos!!2022 プログラムに参加した外務官や地域の関係者とのパートナーシップによるもの ④ 対象：10 歳から 21 歳までの若者 ⑤ 実施方法：若者グループ対象のフォーラムを開催し、日本関係者との交流から得た知識を共有し、共通の課題と解決策を見出す。	

カリコムグループ ②



- ① 文化啓発ワークショップ
- ② 文化交流
- ③ 日本語コースの増設
- ④ 環境保全の重要性の再認識
- ⑤ 戦略的枠組みおよび技術協力の実施に向けた提言とフォローアップ

カリコムグループ ③



- 概要
 - ① 実施計画：ビーチ清掃活動
 - ② 実施理由：青少年同士の交流（人から人へ）
 - ③ 実施方法：SNS 連携とプロモーション
 - ④ 文化融合：与論島エイサーと
- ビーチ清掃活動：きれいなビーチを目指して
 - ① 実施計画：手作業による海岸清掃とゴミのリサイクル促進
 - ② 実施理由：きれいな浜辺保全のための意識啓発
 - ③ 実施時期：3月から5月（継続の可能性あり）
 - ④ 実施する者：青少年グループ
 - ⑤ 対象：海に近い地域とその他人々
- 実施方法：Juntos!! 交流プログラム、フォーカスグループ開催にて作り上げたコンテンツを通じて、SNS 上で与論島での体験を共有する。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター (JICE)